令和6年度 第1回 京丹後市国民健康保険運営協議会

- 1 日 時：令和6年7月12日（金）午後1時30分から午後3時10分
- 2 場 所：京丹後市役所 峰山庁舎 205会議室
- 3 出席者：被保険者代表委員
粟倉小夜子、本田佳美、浜上玉恵、森益美
保険医・保険薬剤師代表委員
飯田泰成、坂根昇
公益代表委員
伊藤位豆子、森口紀子、大橋淳、橋本昌明
被用者保険等保険者代表委員
山田一貴
事務局
市民環境部 志水部長 保険事業課 中村課長、小谷課長補佐、佐川係長
税務課 松川課長

欠席者：上羽清美、安井俊雄、船戸一晴、赤木重典、岡田佐代子
- 4 議 事：（1）会長・副会長の選任
（2）国民健康保険税の賦課方式について
（3）その他
- 5 公開又は非公開の別：公開
- 6 傍聴人の人数：なし
- 7 要旨：次のとおり

事務局

只今から令和6年度の第1回京丹後市国民健康保険運営協議会を開会いたします。委員の皆様におかれましては、御多用の中、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。本日、司会を務めます市民環境部長の志水と申します。よろしくお願いたします。

本日の会議につきましては、上羽委員、安井委員、赤木委員、船戸委員、岡田委員の5名から御欠席の御連絡をいただいておりますが、京丹後市国民健康保険条例施行規則第6条の規定により、過半数の委員の御出席がございますので、本会議が成立していることをまず御報告させていただきます。

それでは開会にあたりまして、中山市長から御挨拶を申し上げます。

中山市長

中山でございます。一言御挨拶をさせていただきます。

今日はそれぞれ大変お忙しい中、京丹後市の国民健康保険運営協議会に御参集いただきました。本当にありがとうございます。

また、先ほどは浜上様に委嘱状を代表してお渡しいたしましたが、それぞれ皆様、委員をお受けいただきまして誠にありがとうございます。本当にお世話になっている方ばかりで、また懐かしい方もおられますけれど、大変お世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

社会全体の状況としてはコロナで大変な状況がここ3、4年ありまして、その間は、医療の皆様を始め関係者の皆様、福祉の皆様、いろんな方々に大変お世話になって国保も御活用をいただきながら、そういった状況を乗り越えてきたと思っております。5類移行後1年強が経過をする中で安寧を取り戻しつつある状況ではありますが、諸物価高騰等の状況があり厳しい状況の中で、市民の皆様は生活をする上で踏ん張ってくださっていると思っております。

そういう中で医療は、とても大切な分野であることは言うまでもありませんが、去年は年度末にかけて、国保をめぐる国府等の厳しい動きもある中で、国保と住民の生活をどうしていくのかということで、我々の町も真剣な検討をさせていただきました。他の自治体では国保税を上げざるを得ない状況もありましたが、京丹後市は何とか経営状況も国保税を上げずにすむほどの一定の状況であり、何とか踏ん張って上げずにという判断をし、また皆様にも御了解をいただいて現状があるということでございます。その折には、委員の皆様それぞれに大変お世話になりました。感謝を重ねて申し上げます。

このような状況で国保の制度も精一杯踏ん張って、諸物価が上がるような中で、住民生活に過度の負担をかけないように、ぎりぎりの運営をしていかないといけない状況にあります。と同時に今我々の国保の計算の基礎になっている所得割、資産割を中心としたあり方について、他の自治体の状況も踏まえながら、また、世代間の負担のありようも見越しながら、或いは様々な総合的な状況の中でどうしていくべきなのかということについて、検討をしないといけない、そのような局面に来ていると思っております。今年は、賦課方式のあり方について、見直しの検討をお願いすることになるかと思っております。その点も含めてどうぞよろしくお願い申し上げます。

マイナンバーカードの保険証利用と医療の体制については、いろいろな課題が出てきておりますけれども、住民の皆さんに安心して医療を受けていただけるような環境を引き続き作って参りたいと思っておりますので、皆様のお力を賜りますようお願いいたします。

今日もどうぞよろしくお願いいたします。

事務局

中山市長におきましては、誠に申し訳ございませんが、他の公務のためここで退席をいたします。

それでは、今回新たに御就任を賜りました委員の方もいらっしゃいますので、ここで委員の皆様の御紹介をさせていただきたいと思っております。

本日の配布資料の中に委員名簿がございますので御確認ください。私の方からこの名簿の順にお名前の御紹介をさせていただきますので、お名前を申し上げた後にその場で結構ですので立っていただきまして、お名前と御挨拶をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

———（委員の紹介）———

ありがとうございました。それでは事務局の自己紹介をさせていただきます。

———（事務局の自己紹介）———

以上のメンバーで3年間どうかよろしくお願い申し上げます。

それでは、次第の3、協議・報告事項の(1)会長副会長の選任でございます。京丹後市国民健康保険条例施行規則第4条の規定によりまして、公益代表委員の中から、会長と副会長を互選いただくという形になっております。

まずはどなたか立候補がございましたらお聞きをさせていただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。ないでしょうか。

それでは委員の皆様から御推薦等がございましたらお聞きさせていただきたいと思っております。御推薦の方でしょうか。

委員

私も 2 期目ですが、今回 2 期目の久美の浜福祉会理事の橋本様、前運営協議会においても闊達な御意見をされていたと思いますし、ぜひ会長お願いしたいと思います。合わせて、福祉分野で広範に活動されています、社協の森口さんに副会長をぜひお願いしたいと思います。

事務局

御推薦をいただきありがとうございます。他にございますでしょうか。

それでは、会長に橋本様、副会長に森口様を御推薦いただきました。このお二人をお願いしたいと存じますが、委員の皆様よろしいでしょうか。

ありがとうございました。御承認いただいたということでございます。

それでは会長に橋本様、副会長に森口様にお世話になりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

橋本会長また森口副会長におかれましては、前に席を設けておりますので移動をお願いいたします。

それではここで橋本会長から御挨拶をいただきたいと思います。橋本会長よろしくお願いいたします。

会長

只今御推挙いただきました橋本です。

何分こういった役割は苦手でありまして、うまく進行できるかどうか不安もございます。委員の皆さんまた事務局の皆さんの御支援をいただきながら、円滑に議事が進められるように御協力願えたらと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

私は新聞といいますが活字が比較的好きで、合わせてテレビも大好きで、朝起きてから寝る前まで点いている生活を送っております。他にも自然科学とか生物が好きな分野であります。今朝も朝一番に新聞を取りに行きまして、朝刊 4 紙を半分に折った状態で並べます。今日は一面に何が掲載されていたかという、昨日の最高裁判所の小法廷で判決があった、統一教会の献金に関わる問題です。協会が献金をした方から取っていた念書が有効かどうかの判断がなされました。これは必ずしも尋常な下で作ったものではないということで、念書の有効性を認めていた東京高裁に差し戻しをしたという記事が、4 紙とも一面に載っていました。トップの掲載が 3 紙ありました。1 紙だけ縁の方にありましたが、4 紙とも半分に折った中に見出しが入っていました。

これと同じことがこの 7 月 4 日にもありました。それは最高裁の大法廷での判決です。これは私たち障害を持った方たちとの関わりが深い人間にとってはかなり大きな問題でした。それは、旧優生保護法が違憲かどうかという判断がなされた結果の報道です。優生保護法は、昭和 23 年頃にできたと思いますが、当時の谷口弥三郎議員と、この地域では割と有名な太田典礼さんも法案成立に尽力されたように伺っております。その法律が憲法第 13 条の幸福追求権、そして第 14 条法の下での平等と差別の禁止に抵触するから、この優生保護法は違憲であるということで国に賠償を求めるといふそういった結果が報道されていました。これも同じように、一面トップの掲載が 3 紙あり、1 紙が少し縁の方に載っていたというのが、7 月 4 日の新聞でした。

私はテレビではあまり歌番組や、バラエティ、ドラマは見ないのですが、去年は牧野富太郎さんの「らんまん」という番組を植物が好きなので見ていました。そして今回の朝ドラは「虎に翼」で、ドラマの中で主人公が「はて？」と言う場面がよくあります。これが憲法第 14 条の法の下での平等、男女差別も含めてそこに抵触するようなことがあると「はて？」というセリフが出てくるということで、割と有名になっています。彼女は法律というのは、私たちを助けてくれるものだという言い方をしていました。

まさに昨日、そして 4 日の新聞の記事でも同じようなことが言えると思いながら、テレビを見ているところです。

60 年近く前の話で高校生だった頃に、府立高校の建物には、「憲法を暮らしに生かそう」という垂れ幕が下がっていました。府立の建物にもそういった垂れ幕が下がっていたと思うのですが、こ

うということなのかなと思ひながら思ひ起こしておりました。

この国民健康保険も、憲法 25 条の健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を持っているというところに依拠して、そして第 2 項で国がそれを実現しなければならないという、そういった中で、国民健康保険があると思うのです。そういう意味で私たちこの京丹後市国保運営協議会の役割というのは、この京丹後市という範囲ではあるかもしれませんが、皆さんの健康、そういった問題に責任を持つということではないかなと思います。自分に対しちょっと戒めながら言ってるんですけども、そういう立場で議論をしていきたいと思っています。

少し硬い話になりましたけれども、僕は非常にいい加減な人間ですから、みなさんも「いい加減」で話をしていただけたらなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局

ありがとうございました。

それでは京丹後市国民健康保険条例施行規則第 6 条の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので、これより先は会長に議事進行をお願いしたいと思います。橋本会長よろしくお願ひいたします。

会長

会議に先立ちまして、議事録署名委員を指名いたします。本日は、浜上委員と森委員のお二人にお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

それでは、次第の 3、協議・報告事項の(2)国民健康保険税の賦課方式についての説明を受けたいと思います。事務局、よろしくお願ひします。

事務局

それでは、国民健康保険税の賦課方式について説明をさせていただきます。

———— (資料 1 により説明) ————

会長

ありがとうございました。ここで一旦質問を受けたいと思います。いかがでしょうか。

会長

社会保険に入らなければならなくなり、社会保険証ができるまでに医療機関を受診したため、加入保険が変わったことを伝え、レセプト提出ぎりぎりまで処理をしてもらったことがあります。国保に加入する時、脱退する時の手続きについてのアナウンスはされていると伺いましたが、どのようにされているのか教えてください。

事務局

今年の 4 月は国民健康保険証の一斉更新がありまして、同封の文書で手続きの御案内をしています。また、きょうたんごお知らせ版や京丹後市ホームページに掲載をしていますが、皆さんに御理解いただいている状況になっていないという現状にあります。

会長

ありがとうございました。他にございませんでしょうか。

それでは、続いて資料 2 の説明をいただきたいと思います。

事務局

それでは、資料 2 について説明をさせていただきます。

会長

京丹後市の国保税の課税状況について報告をいただきました。御質問等はないでしょうか。

委員

今説明のありました1ページの当初調定額の推移の中で、当初調定額被保険者数が令和6年度1万1540人、2ページ目の令和6年6月3日時点の被保険者数1万1237人、結局この間で300人も減ったということですか。

事務局

2ページ目の被保険者数は、令和6年6月3日時点の実際の被保険者数となります。それに対し1ページ目の被保険者は、当初賦課をした被保険者数となり、例えば4月までは国保で5月からは社会保険といった方も、4月分は国保税をいただくことになるためこの被保険者に含まれていますので、この差が出ています。

委員

300人もおられるんですね。

事務局

今、団塊の世代が75歳に到達され、後期高齢者医療保険に移行される数が多いということや、社会保険による国保喪失の手続きが当初賦課の後にされるケースもあるため、このような数字となっています。

委員

団塊の世代が75歳に到達されると、社会保険に加入された方がメインということですね。わかりました。

会長

他にはございませんか。

委員

1ページ目の当初調定額は、8ページ目の法定軽減額を反映した後の金額になりますか。それとも、反映前の金額になりますか。

事務局

補足をいたします。1ページ目の一番下に、各年度の当初調定額（法定軽減及び限度額超過の適用後）と記載しておりますが、説明をしていなかったもので、申し訳ございませんでした。そういった適用後の数値となっています。

会長

他にはございませんか。

会長

質問ですが、6ページに所得割、資産割、均等割、平等割の4つの区分での比率の記載がありますが、資産割の割合が年々下がってきているのは、こういった背景があるのでしょうか。

事務局

一般的な回答しかできないですが、固定資産を持っている方が減っていることが一番の要因だと思います。

会長

数字で示される中で、国保を納めていただく方の経済状況が非常に脆弱だということが、見て取れる資料だと思いながら見せてもらっていました。最後のセーフティーネットとしての国保であることを押さえておかないといけないと思います。そのためにどうしたらいいのかということを考えないといけないと思いながら、数字を見せてもらっていたというのは私の印象ですけれども、皆さんはいかがでしょう。

委員

資料を見ていて、人口減少や高齢化、また固定資産のたくさんある人が高齢化しており、働いている人は都市部にいて、お父さんお母さんが亡くなったら財産分けをして売られるというのが、普通の出来事だと思いますが、これに対する対策はありますか。

事務局

国保税を納めてもらい、その中で医療費を払っていかなくてはいけないのですが、国保税だけでは医療費は賄えない状況で、それだけでは運営していくことができません。

制度的に今は京都府へ納付金を支払うことにより、京都府から医療費分を全額もらっている状態です。納付金を納めるための国保税は、国保の被保険者が減っていくと減少しますし、その内、資産割のある方が減っていくとさらに国保税は減少します。

ところが医療費はそれほど減らない状況です。高齢になると病院にかかる方が増え、新薬ができたり医療の高度化により、医療費はどんどん高くなっています。そのため、国保の運営をどうするかということが問題になってきております。

国も国費を入れていますが、社会保障制度による負担が大きくなっているため、なかなか追いついておらず、苦しくなっている状況にあります。

それをどうにかしたいということで、各市町村だけで支えるのではなくて、京都府全体で26市町村が一緒になって、支えて運営していきましようという制度になっていますが、市町村によって差がある状況です。

京丹後市は今のところ黒字で、一般会計からの赤字の補填は受けなくてもよい状態です。

委員

京丹後市は長生きのまちなので、医療費があまりかかっていない人もいます。京丹後市が進めておられるのびのび体操とか、すごく役に立っていると思いました。

親が亡くなると親の持っていたものを相続しないといけなくなり、農家をしていない者は、農地を持っていると固定資産がかかるだけ、例えばそれが駐車場であれば、宅地と比べると固定資産税は何倍というくらい高くなります。活用していなければどんどん土地は売ったほうがいいという言い方ですよ。

今京丹後市では空き家がたくさんあって、家がなくなって土地になれば固定資産税は高くなりますから、処分をしていかなければいけないかなと思います。

京都市であれば、空き家で誰もいなかったら税金が高くなりますという条例があって、うまく税金が入るようにされているし、それによって活用されていくんだろうなと思いました。

会長

他はどうでしょうか。

今日は初めての会議で、初めての方もいらっしゃるなかなか議論になりにくい部分もあると思います。ずっと懸案になっていました資産割の部分については、改めて会議の中で議論させていた

だくということで、今日はこういう状況にあるということを押さえていただくことでいいでしょうか。

いろいろと世の中の動きがあって、例えば先ほど、他の自治体に固定資産を持っている場合の捕捉ができないということがありました。また国の方ではいわゆる金融資産に対して、確定申告しないとわからない部分についても捕捉できるようなシステムを考えていくことを聞いています。

そういう中で、少しでも財源が安定的に確保できることがとても大事なことかなと思います。

とりあえず今日は初めてでもありますし、京丹後市の国保の状況を把握いただきながら、今後、特に今年の課題としてある資産割の問題について、議論を深める勉強ができたということで終わらせていただいてよろしいでしょうか。

事務局

会長ありがとうございました。

今、会長からもお話がありましたように、本日初めての方もいらっしゃいますので、まず国保の概要の説明をさせていただき、理解をしていただくことを思っております。わからない部分につきましては、事務局にお話しいただければ御説明をさせていただきますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

ここで、事務局よりお知らせをさせていただきます。

事務局

次回の会議の予定についてお知らせをいたします。毎年 8 月開催の会議において、前年度の国民健康保険の決算状況を御説明しています。その会議を 8 月 9 日に開催予定としておりますので、御出席いただきますようよろしくお願ひいたします。また後日、御案内をさせていただきます。

事務局

次回の会議は 8 月 9 日ということでよろしくお願ひします。冒頭市長からも少しお話がございましたが、今年度、賦課方式の協議をお願ひしたいと思っております。8 月以降も、そういった部分ではお世話になると思ひます。本日、保険事業課長からも説明いたしました。これまでより 3 方式、4 方式についてはいろいろと御意見をいただいている最中ですのでございまして、一定の方向性を今年度何とか決めていきたいという思ひもございまして、皆様に御意見等賜りながら方向性を決めていきたいということでございまして。

8 月以降、資料等も含めて御提案させていただく中で、御意見等もいただけたらと思ひますので、よろしくお願ひします。

それでは、閉会にあたりまして森口副会長より御挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

副会長

皆さんありがとうございました。

安心して生活する、また心身の健康づくりを考える上で、医療はとても重要なところを占めていると思ひます。本日の資料から、所得割のない方がたくさんいらっしゃるのを見ると、皆さんが安心して医療が受けられるよう、また生活を支えるという面では経済的な負担にこの国保税がならないような協議をしていかなければならないと思ひます。

賦課方式については、3 方式が全国の流れであったり、平等性を保つ点を考えるとそういうところが大事なのかなと思ひます。ただ、3 方式に変更となった場合、前年度の 2 回目の会議資料では、増税となる世帯が 60% ぐらいを占めるとのことだったため、慎重に審議していかないとはいけません。

国民健康保険制度は大切な制度だと思ひますので、安定して運営ができるように意見を出していただけたらと思ひます。よろしくお願ひします。ありがとうございました。

事務局

ありがとうございました。

それでは第1回目の運営協議会を閉会します。本日はどうもありがとうございました。